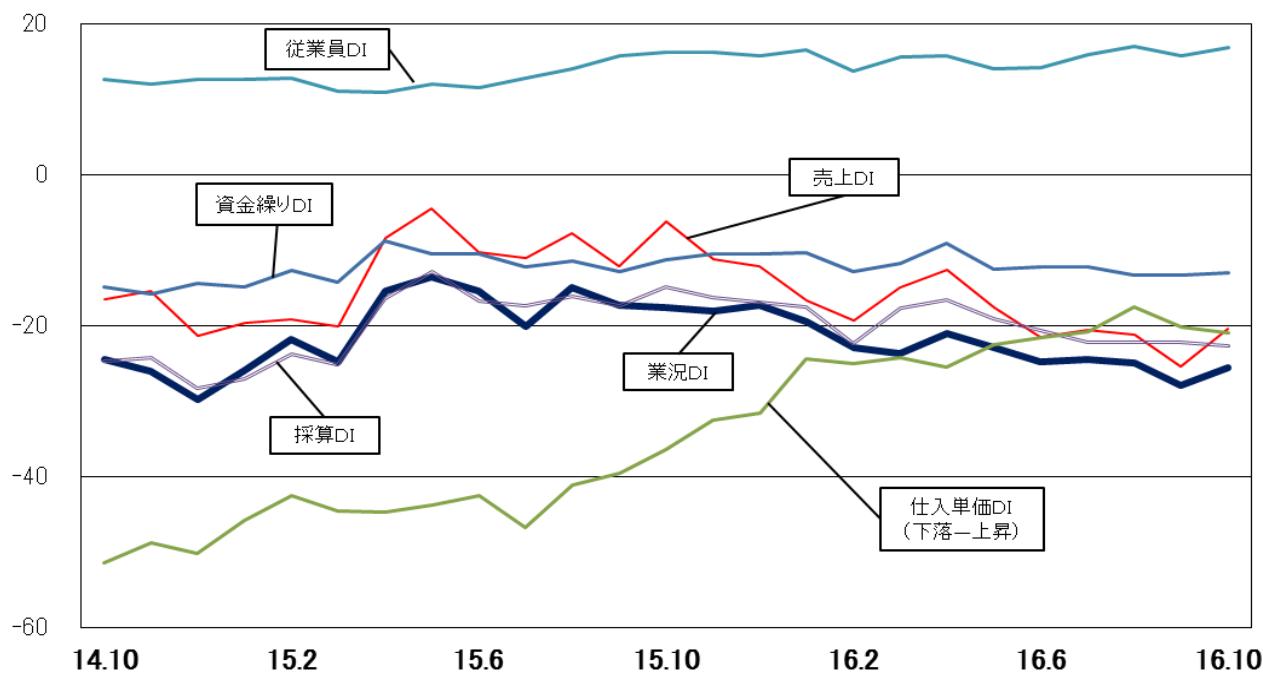


業況DIは、一進一退。先行きは持ち直しを見込むも、慎重な姿勢崩れず

ポイント

- ▶ 10月の全産業合計の業況DIは、▲25.5と、前月から+2.3ポイントの改善。住宅など民間工事や公共工事が持ち直したほか、自動車や電子部品の関連業種で堅調な動きを指摘する声があった。他方、個人消費の低迷が続くなか、人手不足や最低賃金改定による人件費の上昇、9月の天候不順を背景とした農水産物の価格高騰が、小売業、飲食業の業況感を悪化させるなど、中小企業のマインドは依然として鈍く、一進一退の動きとなっている。
- ▶ 先行きについては、先行き見通しDIが▲22.6(今月比+2.9ポイント)と改善を見込むものの、「悪化」から「不変」への変化が主因であり、実体はほぼ横ばい。住宅投資や公共工事の増加、年末年始の商戦を契機とする消費拡大への期待感がうかがえる。一方、消費の一段の悪化、円高や海外経済減速の長期化を懸念する声は多く、人手不足や人件費の上昇などの課題を抱える中小企業においては、先行きへの慎重な姿勢が続く。

LOBO全産業合計の各DIの推移(2014年10月以降)



2016年度の設備投資動向

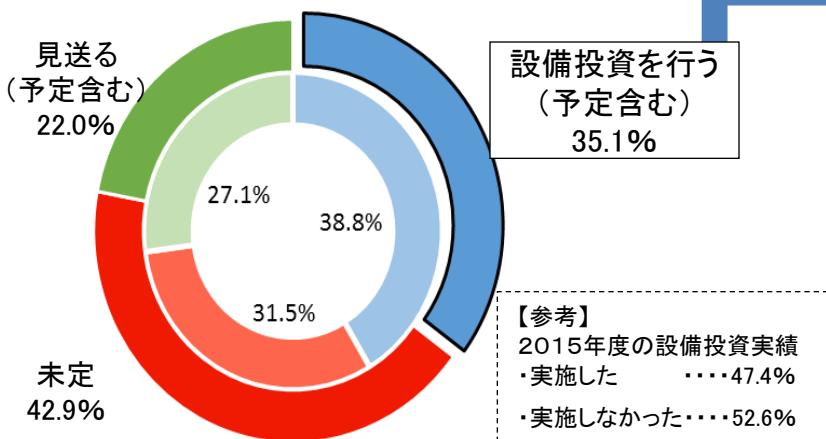
- ▶ 2016年度に設備投資を「行う(予定含む)」企業(全産業)は35.1%と、前年同月調査と比べ、3.7ポイント減少。他方、「未定」は42.9%と、11.4ポイント増加し、「見送る」は22.0%と、5.1ポイント減少
- ▶ 設備投資内容は、「国内で新規設備投資」(全産業)が52.7%、「国内で既存設備の改修・更新」が65.6%、「海外で新規投資または既存設備の改修・更新」が3.3%
- ▶ 国内の新規設備投資の目的は、前年同月調査に比べ、「能力増強」が10.0ポイント、「品質向上・新製品生産・新分野進出」が7.0ポイント増加した

[中小企業の声]

- ▶ 生産能力の強化のため製造ラインの増強や新薬開発に向けた研究開発部門への設備投資を積極的に実施している (富山 医薬品製造業)
- ▶ 賃貸住宅建設が好調なのに伴い、売上げが堅調に推移。更なる受注見込みがあるため設備投資を実施し、営業強化を図る (福山 総合工事業)
- ▶ 売上は堅調だが、新規取引先の受注量がはっきりしないため、新たな設備の導入や車両の購入を躊躇している (高松 運送業)
- ▶ 最低賃金の急激な上昇に伴い人件費が増し採算が悪化しているため、今年度は設備投資を断念せざるを得ない (名古屋 給食サービス業)

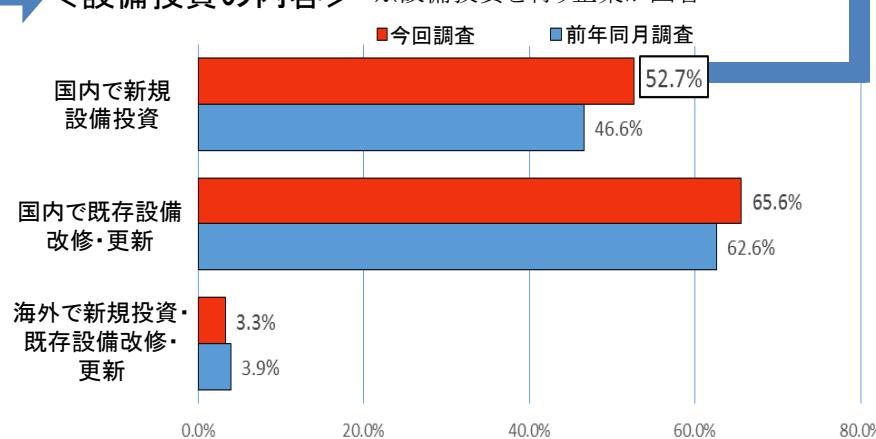
◆2016年度の設備投資動向について

※円グラフの外側が今回調査、内側が前年同月調査



<設備投資の内容>

※設備投資を行う企業が回答



<国内の新規設備投資の目的>

【複数回答】

